

## 「参加報告書」

京都大学文学部 4 回 石川凜

## 1. 学習成果

まず、私の今回の派遣の狙いが、清華大学の学生たちに向けた日本紹介（日本語で実施）のリーダーであったことを明記しておく。その上で、学習成果は以下の三点にまとめられる。

第一に、異文化の視点で自己の文化を顧みる機会を得たこと：「京都・日本の文化を紹介する」と漠然とした計画をたてたものの、自己を取り巻く当たり前の文化をありきたりでないやり方で紹介することは簡単ではなかった。この紹介の準備を通して、日本文化（とくに自分の発表テーマである京都）の特別さとは何なのかを検討することで、深く京都について理解することができた。

第二に、ありきたりなやり方でない日本の紹介を試みる機会を得られたこと：派遣先の台湾においては、日本に興味を持つ若い世代の学生が多い。インターネットの発達などにより多くの日本文化は国境を越えて広がっている。それらに日々触れている「目が肥えた」学生たちを驚かせるような発表を行うことが、本 SEND の大きな課題であった。必然的に、学生たちにさらに日本への興味を深めてもらうため、テーマ選択や発表に用いるスライドなどに工夫をこらすことになり、結果として、自分の発表も含めすばらしい発表を数多く提供することができた。

第三に、大勢と共に何かをやり遂げる経験をつめたこと：今回の派遣では、日本紹介のリーダーに指名されたために、自分のことだけではなく、他の京都大学の学生たちにも指示を出さなければならない場面が多々あった。この第三の点については自分自身反省も多く、自分以外の人と共に何かを成し遂げることの難しさと同時に楽しさを知ることができた。幸いなことに、共に発表をすることになった京都大学の派遣仲間から厳しくも暖かい指摘を得ることが出来たため、今後の自己の成長に向けて、ぜひともこの学習成果を生かしていきたい。

## 2. 海外での経験

上述したように清華大学の学生たちは大変熱心に日本文化を知りたがり、また日本語の訓練として日本人と接する機会を喜んでくれた。我々としても、現地で日々の生活を送っている学生たちと交流することで、観光客として台湾を訪れる時には決して触れることができない「素顔の台湾」を知ることができ、これは大変大きな学びであった。上であげた日本紹介の授業を通じた交流以外にも、公式の予定には載っていない行事としては、例えば、双方の大学からの希望者が参加する形で共に食事をしたり、休日に日帰り旅行に行くなどの活動を行った。雑談から真面目な議論までありとあらゆることが話題に上り、ともに東アジアに生きているもの同士として、より深く分かり合っていきたいという思いが新たになった。

## 3. プログラム内容

上でも述べた通り、私の今回の派遣は、プログラム名こそ他の派遣生と同じであるが内容はやや異なる。清華大学の学生たちに向けた日本紹介のリーダーが私の主要な活動内容であったが、同時に清華大学側および京都大学の派遣側の好意により、哲学に関連したワークショップに参加する機会をいただいたことをここに記しておく。

## 4. 進路への影響

語学力を有するだけではなく、真の意味で異文化を理解し受け入れることができれば、まさに世界に通用するグローバルな人材になることができることを実感した。今後、学術もしくは実学の世界において国境を越えて活躍することを夢見ているため、その第一歩として得難い経験を積むことができた。